

人事部からのご案内

人事部では奉優会アルムナイ制度の取組により奉優会卒業生を応援しています。また、ウェルカムバック制度などを活用し再入職を推進するなど働く仲間を多く募集しています。ご興味のある方は人事部までご連絡ください。

■ 奉優会アルムナイ制度

奉優会卒業生（退職者）に向けて、法人の最新情報を提供していく仕組みとなります。
卒業後も双方応援し合えるようなコミュニティ創りを新設しました。

奉優会卒業生へのインタビュー！

【ゆうきケアタクシー 高田裕樹さん】

2017年に奉優会を退職し、これまでの経験を活かして介護タクシーを開業しました。開業してから私を知ってくださった職員の方からも沢山のご依頼をいただきとても光栄です。広域な地域に密着している奉優会と共に、私自身も成長していきたいと思っています。



ご用命ください！

● ゆうきケアタクシー

〒152-0033 東京都目黒区大岡山1-34-11-101
【TEL】090-9539-7613

【東京いちば 大串哲人さん】

2019年に奉優会を退職し、福祉施設を拠点に東京の地産地消を掲げる「東京いちば」を立ち上げました。多摩地域の農家さんから野菜や果物を直接仕入れ、福祉施設へ定期配送する「ベジ・デリバリー」、地域と福祉施設をつなぐ野菜直売所「マルシェ」を展開しています。奉優会とは、港区と文京区のグループホームへの定期配送と高齢者福祉施設でのマルシェで、退職後も関わりをもたせてもらっています。



ご用命ください！

● 東京いちば（運営会社：サンタ・カンパニー合同会社）
【問合せ先】info@santa-company.jp

■ ウェルカムバック制度

退職時の給与が保障され、再入職できる制度（※諸条件あり）。
退職しても再度慣れた環境で就業でき、処遇も安定。
ぜひ戻ってきてほしいという意味を込め「ウェルカムバック」制度と言います。

再入職職員へのインタビュー！

特別養護老人ホーム等々力の家で
活躍中です！

在籍15年目で他法人へ転職し、1年3ヶ月後に再入職しました。転職先ですぐに感じたのは物足りなさで、奉優会での「達成感」「成長意欲」など高いモチベーションは他では得られないと実感しました。再入職には不安もありましたが、事前の顔合わせや労働条件の説明など丁寧に対応頂きました。温かく迎え入れて頂き感謝しています。素敵な仲間とも出会い、新たなステージで充実した日々を過ごしています。



多和田 真吾さん

優ったり村池尻で活躍中です！

通所介護、グループホーム、小規模多機能、居宅介護等、奉優会在籍18年の間でたくさんの経験をさせてもらいました。他の法人で経験を積みたい一度退職しましたが幅広く事業運営を行っている法人で再度チャレンジしたいと思い、ウェルカムバック制度を知り再入職させていただきました。幅広い分野で活躍できたらと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



渡部 真純さん

新規開所施設紹介

● 2023年4月1日 運営開始

施設名称	みどりの苑	施設名称	つばめの里・本町東
所在地	板橋区前野町5-9-3	所在地	渋谷区本町3-46-1
アクセス	都営三田線「志村三丁目」駅 徒歩13分 東武東上線「上板橋」駅 徒歩20分	アクセス	都営地下鉄大江戸線「西新宿五丁目」駅 徒歩5分 京王新線「初台」駅 徒歩13分
事業内容	特別養護老人ホーム、通所介護、 居宅介護支援事業所	事業内容	特別養護老人ホーム、通所介護、 認知症対応型共同生活介護

施設名称	優ったり村板橋栄町
所在地	板橋区栄町35-10
アクセス	東武東上線「大山」駅 徒歩4分
事業内容	認知症対応型共同生活介護、 小規模多機能型居宅介護



クジャペン1号



クジャペン2号

施設名称	亀戸福祉会館	神応いきいきプラザ	墨田区いきいきプラザ	中村かしわ地域包括支援センター
所在地	江東区亀戸1-24-6	港区白金6-9-5	墨田区文花1-32-2	練馬区中村2-25-3
事業内容	介護予防事業、趣味教養事業、社会参加活動支援 など			地域包括支援事業

● 2023年8月1日 運営開始

施設名称	特別養護老人ホーム 弦巻の家
所在地	世田谷区弦巻5-34-5
アクセス	田園都市線「桜新町」駅 徒歩12分
事業内容	特別養護老人ホーム、 看護小規模多機能型居宅介護



しば先輩

ゆう

スタッフ募集中！
採用ページはこちら！



奉優会がICTと知見共有で地域の包括的ケア向上

社会福祉法人 奉優会 理事長 香取 眞恵子

新年度を迎えまして当法人におきましては、この4月より地域の皆様のご理解を賜り「優ったり村板橋栄町」や「渋谷区つばめの里・本町東」また「みどりの苑（板橋区）」をはじめとする複数の施設を開所することができました。8月には「特別養護老人ホーム弦巻の家」の開所も控えております。このように当法人が年々介護・福祉事業を拡大できているのは、地域の皆様をはじめ各関係者様のご支援、ご協力のおかげでございます。

さて、昨今の超高齢社会により、介護を必要とする高齢者が増える一方で生産年齢人口が減少し、介護の担い手不足が深刻化しております。この問題を解決すべく、当法人ではICT活用に力を入れてきました。人の手だけでなく、様々な器具やデータも取り入れて分析を重ねることで、利用される皆様のより良い環境づくりに寄与できると考えております。

また、本年2月26日（日）には、244事例の中から選ばれた15事例の研究発表を行う事例研究発表会が開催されました。今年度は会場参加とオンライン参加を選択できるハイブリッド開催とし、のべ450名以上の方々にご観覧いただくことができました。この発表会が情報共有の場にもなり、事業部を超えて事例を展開できるよい機会となりました。

このように、事業部間の関係構築がされていることで、施設拠点の地域に複数事業を展開した際にも連携がスムーズに行えると考えております。そして、その連携とICT介護を活かして包括的ケアの質を高め、地域福祉の活性に貢献することが奉優会の使命であると感じております。地域の皆様に信頼され、施設をご利用いただいている方々やそのご家族の穏やかな日々に寄り添えるよう、真剣に学び、謙虚に努力していきたいと思っております。



問合せ先

社会福祉法人 奉優会ホームページ
<https://www.foryou.or.jp/>





第15回事例研究発表会受賞事例の紹介

1

最優秀賞

死を望むI様の社会復帰記録 ～誰もが何かの専門家～

「全職員でご利用者に、その方らしい生活を！」

難病により自殺願望を抱かれるI様に対し、送迎ドライバーが楽しいことを提案し、それがI様の心境変化に繋がりました。その後、職員たちは「専門家」として、I様と一緒に楽しみながら問題を解決し、就労支援につながったという事例をご紹介します。



I様 男性 49歳 要介護1
病歴：家族性痙攣性対麻痺 進行性の難病で、強い鬱傾向
生きる気力をなくし、自殺願望有り



ポイント

- 送迎ドライバーが、I様の心を開くきっかけを作った。
- ご利用者・職員の趣味や関心ことが、可能性を広げた。
- ご利用者の心境変化に応じて、課題解決に取り組んだ。
- 職員全員が、ご利用者にとって何かの専門家になれる。



心の扉を開く
多方面から模索

ドライバー
心を開く専門家

PC・YouTube・本・折り紙等、経験を活かした様々な事でアプローチ。

趣味を活かしたアプローチ
本人の趣味を、他者交流やリハビリに活用

趣味の折り紙を通じ、他利用者との交流が増加。自然とI様の周りにお仲間が集まるように。

心境変化
「死にたい」→「動きたい」

「もう一度働いてみたい。こんな体じゃ…無理かな？」
I様から『働きたい』というご相談あり。

社会復帰に向けた課題解決
通勤予定の経路に同行し、課題の抽出と解決に向けたリハビリ実施

理学療法士
機能向上の専門家

通勤ルートの同行確認で、公共機関の移動時の段差走行の課題が見つかる。

目標達成!
その方らしい生活を実現

通勤ルート移動時の課題を解消し、再就労の目標を達成！
B型作業所へ社会復帰される。要介護1から要支援2に改善。

■ご利用者の望む未来を叶えるために

職種に関わらず、一人ひとりのご利用者に向き合い、個別に関わることで様々な「きっかけ」が生まれます。その「きっかけ」がQOLを向上させ、ご利用者のその方らしい生活に繋がります。今後も、「全職員でご利用者に、その方らしい生活を！」をスローガンとして、全職員がご利用者にとって「何かの専門家」として取り組んでいきます。

2

優秀賞

Sasuke(サスケ)ナブルなケアを目指して ～多職種連携コンピテンシーと共に～

■介護ロボットを活用した離床と生活リハビリでQOL向上を目指す

沓掛ホームでは、多職種連携コンピテンシーという考え方を活用し、互いの役割や知識、価値観を共有し尊重しています。生活を支える介護職員を専門職が支えるため、現場で負担なくできる方法を一緒に考え実践しています。ノーリフティングケアによる離床と生活リハビリに繋げる習慣と事例をご紹介します。

沓掛ホームの習慣(持続可能な日常)

1 利用者のADL・性格を理解し 個別の離床時間を設定

要介護度が高い方は、賑やかな環境にいと昼夜逆転になりやすく、日中の活気や傾眠の減少に繋がります。

奉優会特養 トップ!!
6時間以上:98.3%
4時間以上:100%

2 生活リハビリの環境作りと推進

無理のない範囲であてて遠くのトイレに誘導し歩く距離を延ばし運動を促します。

3 自立を促し 自尊心を守り 尊厳を支えるケア

過剰なリスク回避や職員都合の介助を行わず、出来ることは見守ります。

4 介護ロボット活用による 離床支援

ご状態に合った離床方法で離床率100%!年齢、国籍、性別、体格、キャリアに関係なく支援が可能に。

5 朝の申し送り

朝の申し送りでは専門職が集結しその場でカンファレンス!!迅速な対応に繋がります。

多職種連携のポイント

- ▶ 多職種協働でICFに基づいた個人目標を設定
- ▶ 介護ロボット活用によるノーリフティングケアの推進(機能訓練指導員による研修2回/月)





スライディングポート Hug Sasuke

事例 K様(要介護5)

感染防止のため居室内で過ごしていただいた結果、活気もなくなり傾眠がちに…。感染対応終了直後から多職種で離床支援を開始。座位が不安定でチルト式車椅子ご利用のK様が移乗サポートロボットHugを使用してトイレの自立支援が出来るなど、感染対応前以上の回復が見られました。

	隔離前	隔離中	解除後
食事摂取量平均	94%	78%	93%
水分摂取量平均	1143ml	921ml	1093ml
バイタリティンデックス	6点	3点	6点

※バイタリティンデックス:日常生活動作への意欲を5項目で評価。評価点は0～10点で、得点が高いほど生活意欲が高くなります。



介護職員から Hugの使用を提案!!

展望 ご利用者の離床を、より実践的かつ科学的に取り組み、自立支援とQOL向上に貢献してまいります。

東京都杉並区

特別養護老人ホーム 沓掛ホーム

管理栄養士 千代原 智美

私がご報告します!

多職種連携コンピテンシーとは?

多職種連携を実践するために必要な能力。「ご利用者様・ご家族・コミュニティ中心のケア」「職種間コミュニケーション」を行うために、「職種としての役割を全うする」「関係性に働きかける」「自職種を省みる」「他職種を理解する」の4つの能力を磨く必要があるとされる。

3

理事長賞

あなたと向き合うICT ～ともに過ごせる尊い時間～

■ ICT活用でご入居者の個別ケアや自立支援を実現! 尊厳ある暮らしの実現へ

介護の担い手不足が深刻な社会問題となっており、処遇改善等介護人材を確保する取り組みに加え、ICT活用による生産性の向上も図られるようになってきました。特別養護老人ホームかわいの家において、行動分析システムで職員の行動分析を根拠に適したICT機器等を導入することで、生産性向上と個別ケアに取り組んだ事例を紹介します。

取り組み **まずはICT機器に慣れることから!**

ケアの時に邪魔になりそう…、画面が小さくて見づらい

- タブレット端末に持って使って慣れる
- ケア記録の定型文の追加・更新
- Bluetooth体温計血圧計の導入
- 安心安全見守りシステムとの連動
- 音声入力の実施による詳細かつタイムリーな記録の実施

iPad, iPod touchの使用率

iPad 10% → **85%** | iPod touch 5% → **74%**

音声入力の活用で 外国人スタッフの負担も軽減できました!

ICTの活用で生産性向上

1ケア1入力で記録による残業時間大幅減!

【ICT活用のメリット】

- メモ等の必要がない
- 思い出ず時間が からない
- 正確な時間で記録が可能
- 記録忘れ防止

記録のための残業時間

200 時間 → **84 時間** (R3年10月 → R4年10月)

半分以上に減少

ケアの質向上 (事例1) 見守り支援ロボットの活用で、適切なタイミングで介入

T様 89歳女性 要介護4

- 入居前より不安症状あり、精神薬を内服
- 夜間帯のオムツ外しが頻回
- 何度も失禁され、全ての衣類・シーツ交換が必要で眠りの妨げに
- 職員負担も大きかった

- 見守り支援ロボットを導入し、睡眠データ収集分析
- 巡回排泄タイミングを見直し、睡眠確保
- **精神薬 3錠→1錠に減少**
- **オムツ外し 平均5回→1回に減少**

ケアの質向上 (事例2) 生活の記録が増えた事で生活リズムを見直しへ

H様 81歳女性 要介護3

- R4.6に転倒、急激なADL低下
- 生活全般に介助が必要になる
- H様の今の生活リズムに合った支援が行えていないのでは?

- 朝の時間の記録をこまめに入力
- 目覚めの時間が5時→7時30分頃になっている事が判明
- しっかり覚醒出来るようになり、食事全介助から**自力摂取へ** ADLが向上した。

ICTの活用で生産性もケアの質も向上!

引き続き、ICTや介護ロボットを積極的に活用し、根拠に基づいた個性の高いケアを実践し、尊厳のあるその方らしい暮らしの実現に向けて施設全体で取り組んで参ります。

4

常務理事賞

地域包括支援センターにおける 多文化ソーシャルワーカーの必要性和取り組み

■日本語の壁 ～スイス人高齢者の困ったを地域の困ったと捉え解決へ!～

東部包括支援センターでは、外国人高齢者の増加や多様化を背景に、コミュニケーション支援としてのサポート体制について重点的に取り組みました。そこで、外国人高齢者向けに、介護保険制度や申請方法について分かりやすく伝えるため、英語版介護保険申請マニュアルを作成しました。多文化ソーシャルワーカーを配置することで、外国人高齢者を日本の社会システムにつなげる働きがあり、今後外国人高齢者も地域の高齢者の一員として活躍できる多文化共生社会の実現を目指していきます!

スイス人高齢者からのご相談

I様 75歳(来日して20年) 日本語は会話のみ、読み書きは困難

数年前パーキンソン病発症

引きこもりがち 地域から孤立し始める

日本語の理解にも支障がはじめる

税金・光熱費の滞納 掃除・ゴミ出し困難

手伝ってほしい 寂しい……

【外国人高齢者への取組み】

1 英語版 介護保険 認定申請書の作成



2 サービス利用方法の マニュアルを簡潔に

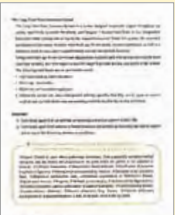
A manual for Long-Term Care System
介護保険申請の手引き



English(英語版)

40ページ・2ページに!

3 職員向け 日本語ガイド作成



窓口での相談や訪問時の説明に活用!



こんなお言葉をいただきました!!

日本の制度は複雑で、英語版のガイドがあってとても助かった。自分のことを理解してもらえてうれしかった。Thank you for everything.

■ 取組みによる効果

こころの壁、言葉の壁、制度の壁を越えた多文化共生の促進

I様の 生活の 変化

- ✓ 介護保険サービス利用開始
- ✓ 書類確認、掃除・ゴミ出し、見守り支援
- ✓ 社会福祉協議会事業利用
- ✓ 日常生活自立支援事業利用

地域との交流再開

スイス人の友人との交流再開

地域イベントへの参加再開

■ 今後の展望

多文化共生の 地域づくり

- 国際交流協会
- コミュニティーソーシャルワーカーとの連携強化

生活支援

- 外国人高齢者に必要なインフォーマル資源のリスト化
- 多文化共生のための居場所づくりや資源発掘

神奈川県横浜市

特別養護老人ホームかわいの家

ICT委員会 照川 仁志

私がご報告します!

